授業科目	失語症Ⅳ（臨床講義）				
担 当 者	井上直哉・大西環・大根茂夫				
専攻(科)	言語聴覚専攻科	学　　年	２年	総単位数	１単位
		開講時期	前期	選択･必修	必修

■ 授業目的・内容

① 失語症者の機能障害・能力障害・社会参加、QOL について考え、支援のポイントを学ぶ。② 失語症者に対し、スクリーニング検査、総合的失語症検査、掘り下げ検査を実施し、評価、訓練プログラムの立案、訓練までを行い、グループで報告書を作成し発表する。適宜次の内容を指導する。（失語症回復の理論と介入の実際、回復時期に合わせた援助、ゴール設定とプログラム立案、訓練の実施、評価報告書の作成）

■ 到 達 目 標

各種失語症検査が標準的な実施方法で実施できる。
検査結果から評価（結果の解釈、問題点の抽出）ができる。
問題点に対し具体的な訓練法を立案できる。
訓練に必要な教材を作成し、訓練を実施できる。
評価報告書を作成し発表できる。

■ 授 業 計 画

第１回　臨床講義１回目　セッションの準備
第２回　臨床講義１回目　失語症者に検査を実施する
第３回　臨床講義１回目　グループ毎にレポート（結果の解釈と問題点の抽出）を作成
　　グループによる発表とフィードバック
第４回　臨床講義２回目　セッションの準備
第５回　臨床講義２回目　失語症者に検査を実施する
第６回　臨床講義２回目　グループ毎にレポート（結果の解釈と問題点の抽出）を作成
　　グループによる発表とフィードバック
第７回　臨床講義３回目　セッションの準備
第８回　臨床講義３回目　失語症者に検査を実施する
第９回　臨床講義３回目　グループ毎にレポート（結果の解釈と問題点の抽出）を作成
　　グループによる発表とフィードバック
第10回　臨床講義４回目　セッションの準備
第11回　臨床講義４回目　失語症者に検査又は訓練を実施する
第12回　臨床講義４回目　グループ毎にレポート（結果の解釈と問題点の抽出又は訓練プログラム）を作成
　　グループによる発表とフィードバック
第13回　臨床講義５回目　セッションの準備
第14回　臨床講義５回目　失語症者に検査又は訓練を実施する
第15回　臨床講義５回目　グループ毎にレポート（結果の解釈と問題点の抽出又は訓練プログラム）を作成
　　グループによる発表とフィードバック

■ 評 価 方 法

筆記試験　100％

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

基本的にはグループ活動であるので、各自が積極的に意見を出し合い、レポートにまとめること。他人任せにしない。
本授業は総合的な学習であるので、失語症Ⅰ～Ⅲで学習した内容が基礎となる。実際の患者様に検査を行い、評価・訓練を考えていくためには、基礎知識が重要であり、Ⅰ～Ⅲの復習とともに、さらに基礎知識を広げていくことが必要である。また、積極的に研究論文を読み込んでいく必要もある。

■ 教　科　書

書　名：脳卒中後のコミュニケーション障害　改定第２版
著者名：竹内愛子・河内十郎
出版社：協同医書出版社

■ 参考図書

■ 留意事項

臨床実習Ⅲに繋がる講義です。しっかりと受講してください。活発なグループワーク・質問・討議を期待します。
不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合がある。変更が生じた場合は、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。